わすれない

― 希望・東日本大震災 ―

2011年3月11日14時46分――海が吠え、大地をのみこんだ
戦後最大といわれるほど甚大な被害をもたらした「東日本大震災」
一瞬で東日本一帯から光を奪い去った
わたしたちはわすれない。奪われた光を。奪われたことの痛みを
そして、必ず取り戻すことを

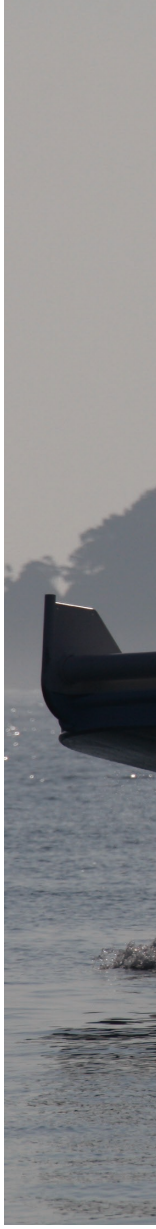
東日本大震災から三カ月。岩手県南部の沿岸を歩いた。

ガレキがきれいに撤去され、朽ち果てた建物だけが残るところもあれば、まだ手つかずのままのところもある。いくらきれいになっても、町そのものがなくなった光景はあまりにも痛々しい。ガレキや岸壁付近の海に、赤い旗がたくさん翻っていた。ご遺体が発見されたところだ。手を合わさずにはいられなかった。

初夏の日差しが降り注ぎ、空も山も遠い海さえも青く輝く。対照的に陸地は茶色のガレキと埃だけ。自然は残酷だ。青い海――養殖いかだやブイがまったく無い入江があるかと思えば、ひと山越えた海には木の切れ端や網に囲まれた屋根が浮かんでいた。

被災したＪＦを訪ね漁業者を探した。本来あるはずの場所までたどり着けたところは少なかった。くねくねとした細い山道を登り下りし、やっといくつかのＪＦを探し当てた。

床がでこぼこになった荷捌き所で、数人の漁業者たちが、遅々として進まない海の



①定置網に使うおもり作りを手伝うNPOの人々
②宮古魚市場に活気が戻る
③操業再開を目指して漁船を修理中

中のガレキ撤去に怒りと不満をあらわにしていた。

岸壁近くで磯船を修理していた漁業者は「これくらいしかやることがないから」「船があっただけまし」と言葉少なに話す。山道の途中で出会えた漁業者は、小型定置網の切れたロープを繕っていた。地震の直後、船で沖に出た彼は「幸い船は無事だったが、振り返ると港が波にのみ込まれていた」。海に多くのガレキが沈んでいるため、定置網を仕掛けることは「当分できない」。それでも操業再開を「目指している」。

ＪＦ宮古は四月十一日から市場を再開した。「産業を動かすしかない」と大井誠治組合長（ＪＦ岩手漁連会長）。「水産をあきらめていないことを皆に知らせたい」――冷蔵庫や製氷施設は壊れたままだが、組合の皆の力で再開に踏み切った。近くの小本浜（おもとはま）では定置網漁が再開され、宮古魚市場に毎日のように水揚げする。その日もＪＦ小本浜の漁業者たちが、選別機と氷持参で市場へやってきていた。

宮古魚市場にひとりの女性がたたずんで

④「やっぱり海で働きたい」漁港の片付けに精が出る
⑤慣れた手つきでちぎれたロープをつなぎ合わせる

いた。市場近くで魚の小売店を営んでいた女性の店は津波で半壊。今は修理中で閉店しているのだが「つい足が向いてしまう」と、毎朝来ているのだという。次々と運びこまれるトロ箱を、うれしそうにのぞきこむ。「仲買さんはそんなに減ってないですね。みんな魚が揚がるのを待っている」。

「漁業者にしろ仲買さんにしろ、ここから離れてしまうことが何より怖い」と大井組合長。だから一日も早く市場を再開したかった。「産業が動けば雇用が生まれる。何よりも漁業者のやる気が戻る」と。

三陸鉄道・恋し浜（小石浜）駅の待合室に掛かる壁一面のホタテ貝絵馬の中には「恋し浜の豊かな海を取り戻したい」「一日も早く元のきれいな海が戻りますように（小石浜婦人部）」と、切実な思いがつづられている。

崖の下は津波、崖の上には大地震の爪痕がそのまま残っている釜石湾のとある集落。何も無くなった民家の跡地に、その家のひとが大切に育てていたのだろう都忘れの花がひっそりと咲いていた。（編集部）

写真　伊藤賢二

特集

2012 国際協同組合年（ＩＹＣ）に向けて

今年は、国連が提唱している
2012年の「国際協同組合年」の一年前にあたる。
この2012国際協同組合年は、わたしたちＪＦグループはもちろんのこと、
ＪＡや生協などの日本の協同組合や世界各国の協同組合も含めた協同組合組織にとって、
その価値や役割などを社会に向けて広くアピールすることができる
またとない機会である。
ここでは、2012年に向けた第一歩として、概要を中心に紹介する。

ＪＦ全漁連信用・組織指導部

ＩＹＣとは？

二〇〇九（平成二十一）年十二月十八日に開催された第六四回国連総会で、二〇一二年を「国際協同組合年（ＩＹＣ：International Year of Co-operatives、以下「ＩＹＣ」という）とする宣言が採択された。二〇一〇年には、スローガン「協同組合がよりよい社会を築きます」が決定し、ＩＹＣのロゴマークも発表されたところである。

国連は加盟各国でＩＹＣに関する実行委員会を設けるよう呼びかけており、二〇一〇（平成二十二）年十二月現在で、日本を含めた二四カ国で委員会が設立されている。

ＩＹＣ全国実行委員会とは？

ＩＹＣの取り組みを推進するため、全

国実行委員会が二〇一〇（平成二十二）年八月四日に発足した。

全国実行委員会は、日本協同組合連絡協議会（JJC：Japan Joint Committee of Co-operatives、以下「JJC」という）加盟団体に加え、信用金庫、信用組合、中小企業、協同組合等の全国組織、さらにNPO等の非営利・協同の団体、学者、文化人、マスコミ関係者など、一〇〇人を超える団体や個人で構成されている。

実行委員会は経済評論家の内橋克人氏を代表に、各種協同組合の会長をはじめ幅広い分野の方で構成されている。服部郁弘JF全漁連会長や、JF全国女性連会長、さらに東京海洋大学客員准教授のさかなクンも実行委員に就任している。

IYCに関する取り組みについて

二〇一二年に向け、全国実行委員会を中心にIYCに関する多くの取り組みが行われている。

実行委員会では、国際協同組合デーなどの中央イベントの開催（二〇一一年、二〇一二年はJJCとIYCの共催）や、IYCや協同組合について紹介を行うDVDや記念誌等の広報資材の作成、さらに「協同組合憲章（草案）」（第二章参照）の策定など、さまざまな取り組みが行われている。

また、全国で続々と設立されている都道府県実行委員会では、地域の特色を生かしたイベントや協同組合間提携などが企画されており、IYCを全国的に広めようとする動きが広まっている。

IYCに関する情報は、全国実行委員会ホームページより入手が可能である。

http://www.iyc2012japan.coop/

（二〇一二国際協同組合年全国実行委員会）

今後の主なスケジュール

2011年7月14日（木）	第2回全国実行委員会 第89回国際協同組合デー記念中央集会
2012年1月ごろ予定	2012国際協同組合年開始イベント
7月7日（土）予定	2012国際協同組合年関連行事
11月26日（月）～30日（金）	ICAアジア太平洋地域総会 協同組合フォーラム（神戸国際会議場）

〈参考〉

■協同組合とは？

協同組合は、人々が自主的に結びついた自立の団体である。また、組合員が共同で所有し、民主的に管理する事業体を通じて、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを満たすことを目的とした組織でもある。そのため、協同組合は、組合を組織する者が事業の利用者であり、同時に組織を運営していく運営者でもあるという特徴（組織者＝利用者＝運営者）がある。つまり、協同組合を組織した組合員が、組合の運営に参加し、組合の方針を決め、実践して事業を利用する仕組みをもっている。

■協同組合の特徴（株式会社との違い）

協同組合と株式会社の大きな違いは、組織の目的である。

協同組合の目的は、組合員の生産や生活を守り向上させることにあり、利潤の追求を目的としていない。また、運営については、一人一票制であり、民主的運営がなされる。

一方、株式会社の目的は利潤の追求にあり、できるだけ多くの利潤をあげて、これを株主に配当する。また、株式会社の運営は、株主の所有する株数に応じた議決権で決定される。株式会社が「株式」（お金）による結びつきが強いことに対し、協同組合は「人」で結びついているといわれている。

■ＪＪＣとは？

ＪＪＣは、一九五六（昭和三十一）年に設立された。ＩＣＡに加盟する日本の協同組合組織の全国機関（ＪＡ全中、ＪＡ全農、ＪＡ共済連、農林中央金庫、家の光協会、日本農業新聞、日本生協連、全労済、ＪＦ全漁連、全森連、日本労協連、大学生協連、全国労働金庫協会）の一三団体で組織する連絡協議体である。主な活動としては、ＩＣＡの国際会議などへの対応や、七月第一土曜日の国際協同組合デーの前後に記念中央集会を開催している。

■ＩＣＡとは？

ＩＣＡは、国際協同組合同盟（ＩＣＡ：International Co-operative Alliance）の略称である。

世界各国に協同運動を広げ、協同組合の価値・原則の普及、協同組合間の国際協力の促進、世界の平和と安全保障への貢献などを目的として、一九八五年（明治二十八年）に組織された。ＩＣＡには、世界のあらゆる分野の協同組合の全国組織が加盟している。二〇〇九（平成二十一）年十二月現在、ＩＣＡに加盟している組織は九二カ国二四八団体（全国組織）、傘下の組合員の数は約一〇億人となっており、協同組合が世界全体に広く普及していることを表している。

※参考『月刊ＪＡ』二〇一一年四月号（第六七四号）

協同組合憲章の制定に向けて

聖学院大学大学院教授 ● 富沢賢治

東日本大震災以前から、日本の漁業は、漁業生産量の減少、漁業就業者の減少と高齢化、さらには世界金融危機等の外部環境の悪化などの結果、深刻な状況にあったが、東日本大震災と原発事故は、追い打ちをかけるように当該地域の漁業に壊滅的な被害を与えている。

漁業の復興に向けての抜本的な再構築案が必要とされているが、ある県では、漁業をまず公有化し、次いで株式会社化するという案も検討されているようである。このような案が現実化すれば、ＪＦは無用の存在とされる。

この問題は、漁業に限られた特殊な問題ではなく、協同組合一般について共通する。どのような事業にしろ、株式会社が運営するほうがよほど効率的であり、協同組合は時代遅れだ、とする議論である。

だが、果たしてそうであろうか。国際的視点から問題を見直す必要がある。

二〇〇八年のリーマン・ショック以降、一〇〇年に一度と言われる経済危機が、世界的な規模で進行している。このような状況のもとで、二〇〇九年十二月の国連総会は、二〇一二年を国際協同組合年とすると決議し、今後の経済開発における協同組合の役割に期待を示した。

その総会決議「社会の発展における協同組合」の骨子は次のようである。

国連総会は、「協同組合が、経済と社会の発展への人びとの参加を最大限に促し、経済と社会の発展の主要素となりつつあり、貧困の根絶に寄与するものであることを認識する」。したがって、二〇一二年を国際協同組合年と宣言し、「全加盟国並びに国際連合及びその他すべての関係者に対し、この国際年を機に協同組合を発展させ、社会と経済の発展に対する協同組合の貢献について認知度を高めるよう奨励する」。そして、「各国政府が以下のことに取り組むよう促す。ａ．社会的発展の諸目的を実現するために、協同組合の可能性と貢献を十分活用する。ｂ．社会的弱者が十分に参加できるような協同組合の発展を促進する。ｃ．政府と協同組合運動間のパートナーシップの強化、協同組合法制度の改善などの措置を通して、協同組合発展のための環境を整備する」

上記のような視点から国連は、国際協同組合年の取り組みを世界的規模で推進するために、各国に実行委員会や窓口を設置するよう呼びかけている。日本では、

世界の協同組合論

元農林中央金庫広報部副部長・系統人材開発部副部長 ● 田中文章

このたびの震災で被害に遭われた方々に対し心よりお見舞い申し上げます。また被災地の一日も早い復興と皆さまのご健康を心よりお祈りいたします。

「二〇一二国際協同組合年実行委員会」（以下、実行委員会）が、二〇一〇年八月に発足した。実行委員会は、国際協同組合年の基本的な目的として、以下の三点を挙げている。

一．協同組合の価値についての社会的認知度を高める。

二．協同組合の設立と発展を促進する。

三．協同組合の設立や発展につながる政策を定めるよう政府と関係機関に働きかける。

実行委員会は現在、協同組合憲章案を策定し、政府に提案し、閣議決定を求める活動に取り組んでいる。

憲章は、一般的には「原則的なおきて」を意味する。法律上の用法としては、ある事柄（たとえば、協同組合）に関してその原則を明らかにして、関連法規の統一的理念を示すものである。

協同組合憲章の目的は、第一に、協同組合の社会的価値を簡潔にかつ平易に示すことによって、協同組合運動に対する社会と政府の認識度を高めることである。第二に、協同組合運動の発展にふさわしい法制度を整備・充実するための指針と政策を示すことによって、政府の協同組合憲章策定を促すことである。

各種協同組合が一体となってこのような憲章をつくる運動に取り組めば、協同組合間の連帯を強化するだけでなく、政府の縦割り行政の壁を取り払い、政府が協同組合運動を一体のものとして認識する状況をつくり出すことができよう。

政府に対する発言力を高めるためには、各種協同組合の個別対応だけでは不十分である。憲章づくり運動をとおして日本協同組合連合会を創設する必要がある。ＪＦの発展のためにも憲章づくり運動への積極的参加が望まれる。

ＪＦ（漁業協同組合）のルーツは、「磯は地付き、沖は入会い」という江戸時代以来の利用共同体と、明治漁政・漁業法が参考にしたドイツ漁業法・水産系統組織にあるといわれる。ここではそのドイツ水産系統誕生の歴史と、同じドイツを源流に発展した各国水産系統組織をご紹介する。

ドイツ漁業の困窮と水産系統の成立

一九世紀初めのドイツでは、旧領主から解放された自営漁民が誕生したが、旧領主の統制を失った乱獲で魚が大量死したうえ、オランダなどからの塩ニシンなど水産物輸入に依存していた。

富国のためには「漁業資源の繁殖」と「漁業・水産業経済の自立」が必要と悟った政府・業界関係者は、一八七〇年に「ドイツ水産会」を設立。同会の音頭で、一八七四年以降、各州で「漁業法」が整備された。

州漁業法は各漁場の慣行・特性に応じた繁殖政策や利用権（漁業権）・利用権者を定める。また、「資源繁殖と組合育成、漁業・水産業利益の代表」を目的に各州で「州水産会」が設立された。州水産会は、主漁場での漁業権者たる「漁業組合」の設立や、入漁規制と漁師資格の認定、養殖・品種改良・試験研究などを推進した。

州水産会の支援で設立された「漁業組合」は、組合員の利用権を調整したほか、水産物の加工・販売なども手がけ、次第に総合協同組合化した。

水産会と漁業組合のこうした取り組みは、乱獲の排除と漁業資源の繁殖、生産高の増大に大きく貢献。ドイツ漁村と漁業・水産業をよみがえらせた。

ドイツ水産会・漁業組合の現在

ドイツの水産会・漁業組合は今も健在だ。ドイツ北岸で北海エビ漁（次頁写真）を主力とするブチアディンゲン漁業協同組合（写真右下）は、ドイツ最古の歴史を誇るニーダーザクセン州水産会の育成を受け、今年創立八〇周年を迎える。

二〇年前に導入した北海エビの自動殻剥き選別機が活躍しており、生産性や衛生面で高い性能を発揮しているだけでなく、環境にも優しいと高く評価されている（次頁写真）。

ブチアディンゲン漁業協同組合・事務所
（ドイツ・ニーダーザクセン州）

欧州域内・東アジアへの拡大

他国にもこうしたドイツの取り組みは広がった。一八八〇年に「オーストリア水産会」が成立したオーストリアでは、各「州水産会」が一八八五年漁業法上の漁業権を管理し、各「市町村水産組合」を統括する。フランスでは一八九八年法で漁業権を管理する「県水産会」と、一八八四年法の「漁業組合」・一九〇六年法の「漁業信用組合」がそれぞれ成立。特に信用漁協（マリンバンク）は大西洋岸・地中海岸・カリブ海領土島で六つの地方金庫が現在も活躍中だ。

日本もこうしたドイツの漁業法制を手

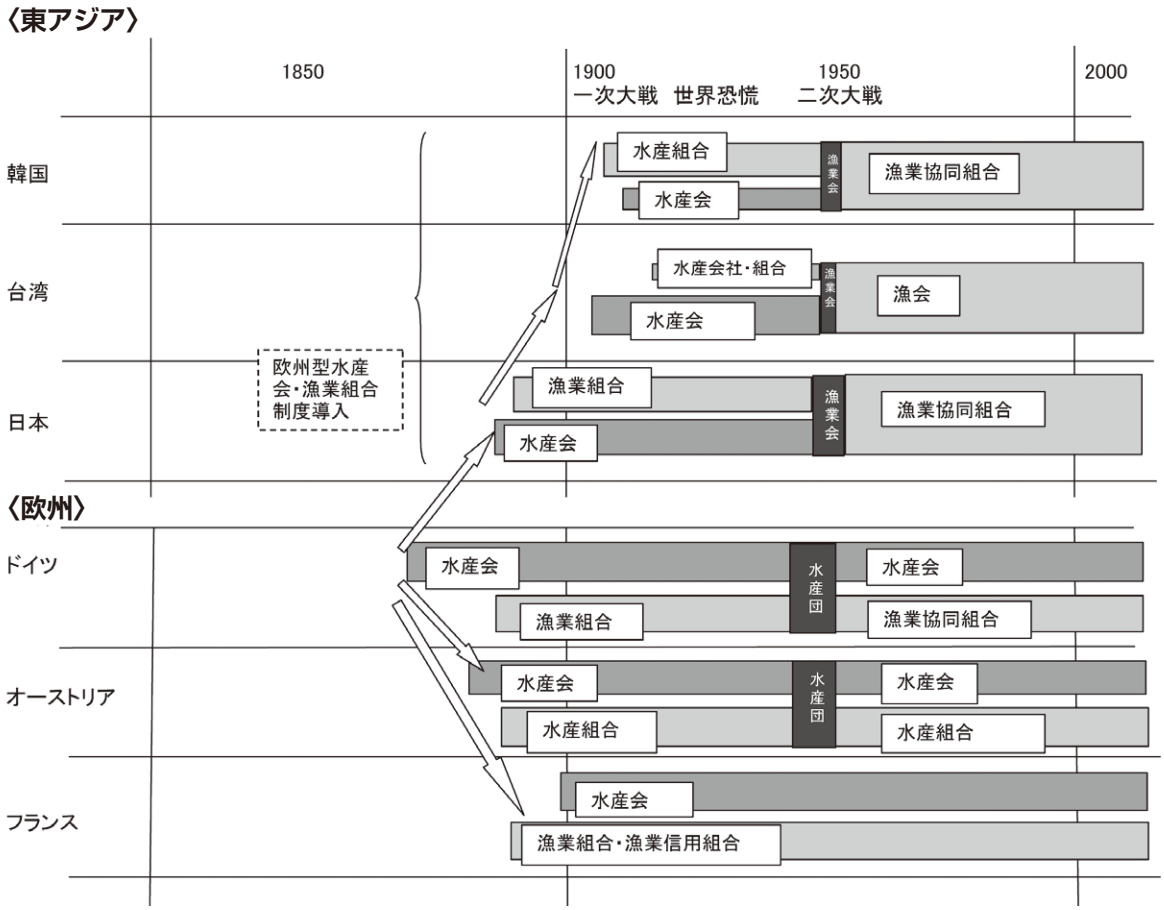
ブチアディンゲン漁業協同組合の
北海エビ漁（ドイツ・北海）

ブチアディンゲン漁業協同組合の
自動殻むき機
（ドイツ・ニーダーザクセン州）

本に一八八六年「漁業組合準則」により漁業組合制度を導入、後に経済・信用事業を兼営した。また一九〇一年には「漁業法」を制定し、一九二一年には「大日本水産会（一八八二年設立）」を母体に「水産会」制度を導入した。

そして日本統治中の朝鮮と台湾でも、同様に「水産会」と「水産組合」制度が導入される。これらは戦後統合し、韓国では「漁業協同組合」、台湾では「漁会」として活躍している。「韓国漁協」「台湾漁会」とも、日本と同様、信用・経済・共済・指導サービスを提供する総合漁協だ。

図表　水産業支援システムと漁業・水産組合の国際的系譜



次の一〇〇年へ向けて

誕生から一〇〇年。各国の水産系統組織は、欧州や東アジアで大きく花開いている。（前頁図表）

しかし漁村が抱える根本課題、「漁業資源の繁殖」と「漁業・水産業経済の自立」という課題が完全に解決したとはいえない。

各国漁村では過疎化・高齢化が進み、新事業の創設による若者の雇用機会拡大などを水産系統組織に求める声が高まっている。漁村で漁業・水産業を基盤に食と漁、環境ビジネス、自然エネルギーなどを組み合わせた新しい事業を起こし、育成していくことが、次の一〇〇年へ向けた各国水産系統組織の発展方向となっていくと考える。

※本稿中、意見に関わる部分は私見であることをお断り致します。

地域社会の支持、共感・共鳴を広げる協同組合運動へ

㈳JC総研常務理事 ● 松岡公明

二〇世紀のキーワードとしては、開発・成長、経済効率性、戦争・競争、環境破壊という言葉があげられるが、二一世紀は共生、安全・安心、人間性（価値・倫理）、相互理解、環境調和などがあげられ、パラダイムの転換が強調されている。いま、リーマン・ショックを経て、「強欲資本主義」や市場原理主義の反省の中で、協同組合の価値観・思想に〝追い風〟が吹いている。この風を受けていかに帆を膨らますか、協同組合セクターのPRの絶好の機会だ。

二〇一二年の国際協同組合年は、単なるイベントだけで終わっては、一年過ぎれば何も残らないことになってしまう。国際協同組合年に向けて、協同組合陣営みずからが協同組合の価値や本質を相互連携して究めていく、社会的活動の内実を高めていく、その実践を通じた理解と支持の拡大運動こそ重要である。具体的には、「協同組合が地域のど真ん中にい

る」という、地域社会との連携にかかる運動論の展開が必要だ。

そのためには、みずからの足元を見つめ、協同組合の哲学、理念、原則、運動論を学ぶ教育が欠かせない。アレグザンダー・フレイザー・レイドローは「協同組合は教育怠慢の罪がある」として、「協同組合は事業組織であると同時に、教育組織でなければならない」という。教育力を協同組合の力としていかなければならない。スポーツの世界でもスランプに陥ったときは基本に立ち返れといわれる。問題は戻るべき基本を持たないことである。幸い協同組合には戻るべき基本がある。協同組合が協同組合であるためのアイデンティティーを自覚し、自主・自立、参加・民主主義、公正・連帯等、協同組合の基本的価値を愚直に学習し、実践実態と照らして、基本的価値を反すう、自己検証し、自己革新に努めていかなければならない。

政治の世界と同様、企業も含めて、地域社会・住民から信用・支持・共鳴されない組織は衰退していくだろう。協同組合は、地域の生産者や消費者が組合員であり、地域が舞台である。介護保険で見られたように、企業が落下傘で降りて来て、もうからないとなればすぐさま撤退していったようにはいかない。協同組合はいわゆる「夜逃げ」ができないのである。徹底した地域密着型の実践と地域社会の信用・信頼が求められる。

地域づくりは、そこに住む人びとの「決意」から始まるが、協同組合の有する経営資源や役割は大きなものがある。地域社会の「器」として、「狭い協同」（共益）を乗り越えて、ひらかれたオープンな組織として協同の輪を広げていく運動論が必要である。多様な人間、組織間の横断的、水平的、フラットなネットワーク、川上（森林）→川中（農業）→川下（漁業、消費者）の自然環境と経済、交流のネットワーク、また大学や研究者など外部専門家とのネットワークなど重層的なネットワーク化のなかで、その協同と連携の多様性を追求していく方法が現実的であろう。それによって、活動の輪も広がるとともに、活動の「品質」も高まるだろう。「組織が存在するのは、組織自身のためではない。企業をはじめするあらゆる組織が社会の機関である」（P・F・ドラッカー）。「倫理強者」として、「運動体」として、地域のさまざまな活動を支援し地域社会に貢献していくこと、すなわち、協同組合の理念・哲学と理想を具体的な実践活動のなかで証明していくという意味での協同組合の「人格形成」が求められる。そのためには、協同組合の哲学、倫理観を磨くための絶えざる教育学習が重要である。

作家の司馬遼太郎氏は満州事変から太平洋戦争に突き進んでいった「『昭和』は精神に悪い」「褌（ふんどし）の外れた時代」と言って昭和の群像についてペンを折った。『坂の上の雲』など司馬氏が好んで描いた「明治という国家」の群像の基底にあるのは「公共的な向上心」だろう。協同組合運動でもその向上心の向上が求められているのではないか。

今こそ協同の精神で頑張ろう

――JF重茂 復興への道

海と漁の体験研究所●大浦佳代

岩手県宮古市、重茂半島一三の浜からなるJF重茂は、いち早く今後の方針を打ち出し、強いリーダーシップで復興への道を突き進んでいる。

四月二十三日に現地を訪ね、伊藤隆一組合長（七二歳）に、お話をお聞きした。

同JFは、家族経営のコンブ・ワカメ養殖と採介藻が中心で、組合員は五八一人。平均年齢は五五歳で、四〇歳以下の若い漁業者がなんと九四人もいる活気ある組合だ。また、乗組員一〇〇人を擁する組合直営の大型定置網四ケ統、イクラやワカメなどの加工場も四カ所あり、一五〇人もの女性たちが働く。

巨大津波の被害はここでも甚大だった。

「まず漁船が全滅といっていいくらい。助かったのは組合全体で一四隻。一トン前後の作業船は七八〇隻のうち、残ったのがたった六隻。定置の船二〇隻はちょうど造船所に上げてあったのが全部沖へ流された。そのうち一〇隻はかき集めて修理中です」。伊藤組合長は淡々と数え上げる。

漁港もすべて損壊した。重茂地区にあったアワビの種苗育成施設、サケの人工孵化場は跡形もなく、収穫期を迎えたばかりだった養殖ワカメもすべて流失した。

加工場は高台の一カ所が助かったほか、やはり高台に置いてあった定置網の二ケ統分が無事だったのは、せめても幸いだ。

これだけの被害を受けても、立ち直りは素早かった。電気水道や道路の復旧より早く、一週間ほどで携帯電話がつながると、さっそくメーカーに電話をかけまくって船外機の在庫を確保。製網会社も数社に当たってワカメ養殖のロープ類を発注した。全国的に品薄確実とみての迅速な動きだった。

並行して、各浜で修理をすれば使えそうな船を集め、早々と造船所に持ち込んだ。

「三月二十日ごろには残った船を共同で

修理すれば使えそうな漁船が集められている（重茂の漁港）

使う方針を決めました。互いに助け合うのが協同組合の姿であるわけだから」

今こそ共同の精神で頑張ろうと、復興に向けた決意を新たにしたという。具体的には、組合員の数に合わせ、公平になるよう浜ごとに漁船を配置。「所有権は個人でも、使用権はみんなのもの」という考え方だ。

アワビやウニの磯漁は、漁に出る順番が水揚げに影響するため、浜ごとに総水揚げを出漁した人数で均等に割る。一方ワカメやコンブの養殖は、手のかけ方によって収量に差が出るため、船は共同でも養殖イカダは個人ごとにする方針だという。

漁再開の第一歩は、五月中旬の天然ワカメ漁から。その次は、七月のワカメの種取りをとても重要な目標にすえている。

「何が何でも養殖用の種を取らないと、来年春の収入がゼロになる。生きるか死ぬかだもの、絶対にやるという意気込みです」

養殖を営む漁家は一八〇戸。一割ほど減るのではという予想もあるが、何とかひと桁減で止めたいと、組合では必死だ。

「三年以内に漁業で暮らせる見通しをつけないとダメ。それくらいのスピードでやらないと、ここをあきらめて出て行くのがいっぱい出るから」。固い決意を込めて、伊藤組合長はそう語る。

若手が多い重茂では、こうした危機感に背中をあおられつつ、急ぎ足で力強く復興への道を歩んでいるように感じられた。

サケの孵化場の跡（重茂地区）

アンバサダー
赤尾信敏の
地球鳥瞰
第32回

赤尾信敏（元タイ王国駐在大使）

中国の経済発展
――その驚異と課題（その二）

今回は中国経済発展の対外経済面に注目したい。経済発展に伴って中国の対外貿易が急増した。中国は輸出額で二〇〇八年に世界第一位に、輸入額で二〇〇九年に米国に次ぐ第二位に躍進する貿易大国になった。中国の輸出額は日本のほぼ半分（二〇〇〇年）から約二倍（二〇一〇年）に、輸入額もこの間に日本の約六〇％から二倍に増大した。米国、ＥＵ（欧州連合）などとの貿易黒字が拡大して深刻な経済摩擦を抱えている。ただ、かつてのバブル期の対日強硬態度と違って、中国市場の重要性に配慮して、欧米の対応は歯切れが悪い。

鉄鋼・金属製品、電気製品、化学品、繊維製品など各種の中国製品がダンピング、補助金付き輸出などの理由で、ＷＴＯルールに基づいた反ダンピング税や相殺関税賦課の対象になっている。反ダンピング税の被発動件数は中国が世界最大で、二〇一〇年末現在五六三件に達する（第二位の韓国は一六五件）。

中国は二〇〇一年のＷＴＯ加盟に際していろいろな義務を約束したが、その履行が不十分との指摘を受けて改善する一方、ＷＴＯ紛争解決に持ち込まれて敗訴したケースも多い。

増大する対外経済摩擦

中国が直面する主な課題として次の四点を指摘したい。

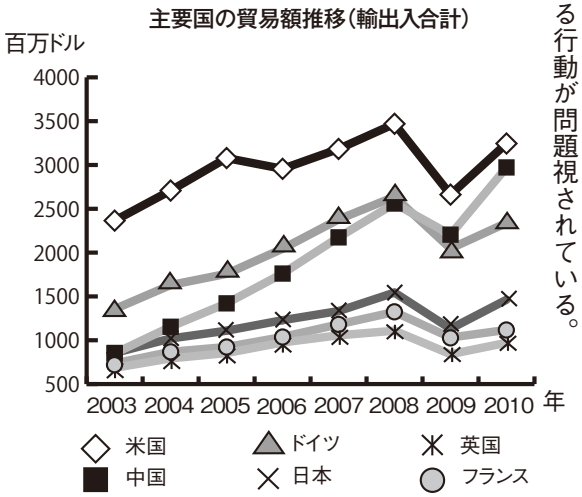
第一に、欧米諸国との貿易不均衡である。二〇一〇年に米国は二七三〇億ドル、ＥＵは一六八八億ユーロの赤字を記録した。輸出主導ではなく、国内消費拡大による経済成長

確保の必要性はバブル期の日本と同様である。米ドルとの固定相場制（一米ドル＝八・二八元）は二〇〇五年六月に廃止したが、厳しい為替管理の下、本年五月現在一米ドル＝六・五元で過去六年間に約二〇％の上昇にとどまっている。これは世界経済の不均衡是正を妨げるとして欧米諸国のみならず、他の新興国からも不満が強い。G20会議などの前に為替管理の緩和ジェスチャーを示し、最近の米中対話でも「相場の弾力性を高める」約束をしたが、具体的進展を期待したい。通貨の切り上げは深刻化するインフレ対策上も望ましい。

第二に、政府調達に当たって中国製品および中国企業への優遇措置が大きな問題。中国はWTO加盟時に政府調達協定への将来の加盟、政府調達手続きの透明性確保などを約束し、二〇〇七年末に加盟交渉が始まったが、進展がない。二〇〇九年には「自主イノベーション認定制度」の下、コンピューター・同関連機器、通信機器、最新オフィス機器、新エネルギー、省エネの六分野につき、国内開発製品（知的財産権保有や商標の初期登録を行った製品）を優遇する制度を発表、ハイテク技術の流出を危惧する欧米諸国の強い反発を招いた。最近、一部見直しを発表したが、中国の政策は朝令暮改的で透明性と一貫性がないのが問題である。

第三に、知的財産権の保護が不十分で、外国企業の損害は膨大に上る。最新のジェトロ調査では、日本の調査対象現地企業の二五％が年間一億円以上の損失を被り、一〇億円以上の損失企業は一〇％余りであった。米国国際貿易委員会の最近の報告では、米企業の損失は二〇〇九年で五〇〇億～九〇〇億ドル（約四兆～七・二兆円）に達した。中国国内法の整備は進んでも、裁判での公平な裁きが確保されず、たとえ勝訴しても執行が担保されない。近年急増する中国企業の特許保護のためにも、法の執行強化が望まれる。ニセモノ、デザインや商標侵害、特許侵害、模倣品輸出にとどまらない。技術の国産化政策を優先目標に掲げて、外国企業の対中投資に高度技術の移転を条件づけることが多いが、強く抗議すべきである。日本やドイツ提供の新幹線技術が模倣され、米国、ブラジルなどで日本企業が中国との競争に直面する状況にある。ハイブリッド車を含む高度技術の対中移転は近視眼的利益ではなく、長期的観点からその是非を慎重に検討してほしい。

第四に、尖閣諸島問題でクローズアップされたレアアース（希土類）の輸出制限は日本のみならず、欧米諸国にとっても深刻な問題でWTO違反との指摘もある。自国資源を守る一方で、アフリカを含む諸外国で資源獲得を目指して、スーダンなど国際的に孤立する国への投資を優先する行動が問題視されている。



組合の結束と助け合いの気持ち

●JF重茂
伊藤隆一組合長

たくさんの漁船が流され、大きな被害が出たにも関わらず、いち早く天然ワカメ漁を再開したJF重茂。そのリーダーをつとめる伊藤組合長にお話を聞いてきました

まだ現実のこととは思えね。浜で生活しているから、津波の覚悟はいつも頭の中さあったのス。ただ、あまりにも大きすぎた。明治29年とは違って、今は防波堤や漁港の施設があるのに、それでも陸(おか)に上がった波が20mよりも高かったっつんだから。

地震のときはここさ（高台にあるJFの建物）いた。上から海を見ていたら、波の白いしぶきがス、松の木より高くダーンとね、打ち上がってくるのが見えた。たった1回だけ。それで終わり。

で、夕方浜に降りてみたら、とてもじゃないが見る影なしだ。もう何も考えられねのス。「あーっ」と立ちつくすだけだね。

最初はショックださ。だども、いつまーでも嘆いてたってもな、などもなんねもんな。だから、受けた被害は被害として、明日から元の生活さ戻すっての、誰でもどこでも考えることだて。仕事だもの。

アワビの資源が一番気がかりだども、それ以外は何も心配してないの。船だって3年もあれば、元のようにそろうと思うし。この災害でかえって、組合の結束と助け合いの気持ちが強くなったと思うのス。

最近聞こえてくる漁港の集約化は、とうてい受け入れられるものではね、でば。ここの漁業は、小さい浜、村があってはじめて成り立っているんだもの。この浜と村を守っていかねばと、強く思っています。

聞き取り：海と漁の体験研究所　大浦佳代

旨！ 海農（うみの）どんぶり

ポイント

魚は刺し身用、野菜は半端に残ったものを
使うと、時短になります。
白だしを使うとさらに簡単、手軽にできます。

主材料（4人分）

あじ
…… 大1尾または中2尾
ちりめんじゃこ …… 80g
くろめまたはめかぶ
…… 1カップ米3合
(a)
いりこだし（事前にとったもの）
…… 2カップ
うす口しょうゆ …… 1/2 カップ
酒、みりん …… 各 1/4 カップ
砂糖…… 少々
粉末いりこまたは和風だし
…… 少々
にんじん …… 100g
オクラ …… 4本
なす ……小1本
きゅうり …… 1本
玉ねぎ …… 中 1/2 個
青じその葉 …… 6〜8枚
すり白ごま …… 大さじ2
焼きのり …… 1枚
温泉卵（市販）…… 4個

作り方

①米はとぎ、普通に炊く。
②(a)は合わせて150mℓをとりおき、残りは鍋で沸騰させてさましておく。
③あじは三枚におろし、20 〜 28切れの刺し身にし、とりおいた②に漬ける。
④にんじんは粗みじん切り、オクラはさっと湯通しし、みじん切りにする。なすは皮をむいてみじん切りにし、水につけてアクをとり、ペーパータオルで水気をよく拭く。くろめと残りの野菜もみじん切りにする。
⑤④、ちりめんじゃこ、すり白ごまと残りの②を混ぜ合わせる。
⑥器にご飯を半分入れ、焼きのりをもんで敷き、残りのご飯を盛る。中央をドーナツ形にあけて⑤を盛りつけ、③を5〜7切れのせて温泉卵を割り入れる。好みで、ゆずこしょうやラー油を加えていただく。

＜第 11 回シーフード料理コンクール受賞作品より＞

鹿児島県阿久根の三角ミナ（シッタカ貝）

童話「白雪姫」の七人の小人がかぶっている帽子を連想させる貝。地元では「三角ミナ」と呼ばれている。

ゆで方に特徴がある。臆病な貝なので、音や衝撃は禁物だ。貝の奥に縮こまってしまうのだ。そのまま茹でても、身を取りだせない。ゆで方のポイントは錯覚させること。前夜から海水に浸し、静かに置く。まるで海にいるときのように錯覚させる。貝口から身がでてきたところで、そっと火にかける。弱火でゆっくりゆっくり。少しずつ「暖かくなってきたなあ」、「いい湯加減だなあ」……と身を伸ばしてきたところで、一気に茹で上げる。

だまし討ちのようなものだが、茹でたての三角ミナは最高だ。つまようじでそっと身を取りだす。なんとか肝までたどりつきたい……薄いふたをかじらないように口に入れる。限りなく磯の香りに包まれる。身はしまって、かみしめるほどに味わい深い。

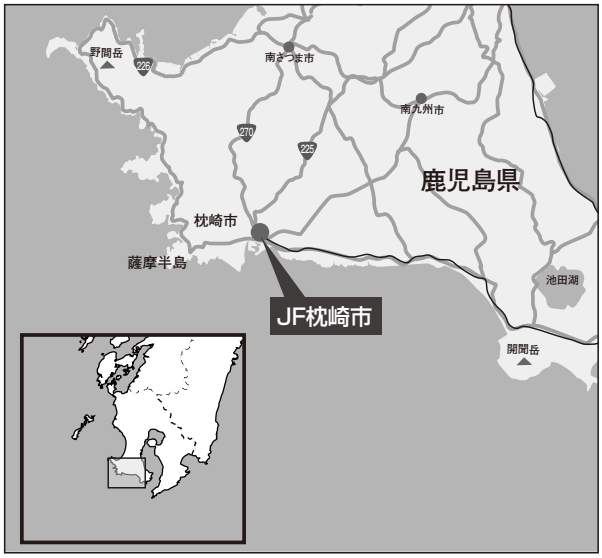
JF最前線

JF枕崎市

カツオ一本釣り漁業を守る！

編集部

かつお節の生産量、一七年連続で日本一に輝き続けている鹿児島県枕崎市。その生産量を支えているのが、三五〇年という歴史を持つ「カツオ一本釣り漁業」だ。日本漁業を取り巻く魚価の低迷、資源量の減少、高齢化、燃油価格高騰といった厳しい環境は、JF枕崎市も例外ではない。さらに海外巻き網漁業の台頭、繰り返す減船で危機的状況にさらされていた。しかし、「カツオ一本釣り漁業を残したい」「先人たちの血のにじむような努力を無駄にできない」――そんな熱い思いから、カツオのブランド化への挑戦が始まった。



JF枕崎市　白窪義広参事

鹿児島県薩摩半島の南端に位置する枕崎市は、年間平均気温一七～一八℃と温暖な気候に恵まれた静かな町だ。町の南側の小高い丘には火の神公園と平和祈念展望台がある。公園の沖にそびえ立つ標高四二メートルの立神岩。まるで枕崎漁港を見守るかのように凛と立っている。立神岩（たてがみいわ）の先は、広大な東シナ海が広がる。ここから南西に約二〇〇キロメートルの沖合いが戦艦大和の沈没地点だ。英霊を祀った平和祈念展望台は映画『男たちの大和』（二〇〇五年制作）のロケ地となった場所だが、JF枕崎市の事務所や組合長室も撮影に使われたことはご存じだろうか。神と英霊を敬い、見守ら

右：ＪＦ枕崎市の建物上部にはシンボルのカツオが
左：外港には遠洋からの漁船が入港し水揚げする

れているのが枕崎市だ。

特三と漁業者自身による一貫体制

ＪＦ枕崎市は、一九四九年に設立され、現在、総組合員数九九四人を抱えている。その歴史をさかのぼると、明治四十二（一九〇九）年、カツオを取る帆船を主とした漁業組合が起源だという。事務所のほか荷捌き所三カ所、製氷貯氷施設、冷凍冷蔵施設、給油施設、総合加工場に加え自営船（遠洋カツオ一本釣り漁船四九九トン）二隻を所有する。漁業者自身が漁労から加工、流通販売まで一貫体制をとっているのが大きな特徴だ。枕崎漁港は一九六九年と早い時期に特定第三種漁港（特三漁港）の指定を受け、国から遠洋・沖合漁業の拠点港として位置付けられた。二〇一〇年の総水揚げ量は九万六九〇六トン、金額は一一三億三一二万円。ここ数年は減少傾向にあるものの、設立当時からの水揚げ量グラフはほぼ右肩上がりだ。枕崎漁港に水揚げする遠洋カツオ一本釣り漁船は二〇〇七年の一八隻から昨年五隻へと大幅に減少したが、右肩上がりのグラフはＪＦ職員の知恵と努力があることをも示している。

そのひとつは、特三漁港を強みとした輸入だ。一本釣り漁業の先行きを懸念したＪＦ枕崎市。枕崎市には日本一の生産量を誇るカツオ節加工工場がある。地域の工場のためにも水揚げを減らすわけにはいかない。一九八五年、外港荷捌き施設の完成をきっかけに海外巻き網漁船の受け入れを、一九九三年には市内五カ所の冷蔵庫が保税上屋（ほぜいうわや）に指定され、輸入の取り扱いを開始。枕崎漁港は国際貿易港としての一歩を踏み出した。これらによって水揚げ量が安定して増加してきたのだ。伝統のカツオ一本釣り漁法を大切にするからこそ、海外巻き網や輸入を受け入れるという選択をしてきたＪＦの苦労が報われているのだろう。

「ぶえん鰹」の誕生

海外巻き網漁業からのカツオを取り扱うことで、一本釣りカツオの差別化が重要な課題となった。水揚げしたときこそ、巻き網と一本釣りのカツオは全然違うものの、

たたきに加工されてパック詰めになってしまうと、見た目では消費者にはその違いが分からなくなる。当然、安いほうが売れる。従来のB1（ブライン一級）カツオをなんとかブランド化できないか。そこには、一本釣りカツオを広めたいという気持ちと、三五〇年間一本釣り漁業を守りつないできた先人たちへの思いが込められていた。

試行錯誤の末に見つけたのが、船上での活け締めだった。カツオ一本釣り漁船がカツオの群れを見つけると、一斉に海に釣り竿が放たれる。息をつく間もないほど、豪快にカツオが釣り上げられ、空中で外れてシートに落ち、生きたままベルトコンベアで運ばれる。そのままマイナス二〇℃のブライン溶液（高濃度の塩水）へ投入され急速凍結されるのがB1カツオだ。生きたまま瞬間的に凍結されているため、驚いたようにぱっくりと大きく口を開けているのが特徴。これに漁師がひと手間かけ、コンベアから選んだ型の良いカツオを一尾ずつ抜き取り、活け締め機でエラの上部を一突きし、血抜きした後、急速凍結したものが「ぶえん鰹」である。

二〇〇五年三月三十日、全国で初めて一本釣洋上活け締めカツオが枕崎漁港へ水揚げされた。その身質の特徴は、ピンク色に近い鮮やかな赤身で、血生臭さが無く、色持ちが良い。なんといっても、モチモチとした歯ごたえがすごい。モチモチ感は、寿司で一貫何千円もする高級クロマグロと比べても遜色ないほどだ。試食してみて「目からうろこ」とはこのことだと感じた。カツオのイメージが一新した。カツオ特有の臭みがないことは、魚通には物足りないかもしれない。けれど、カツオ本来の旨味は豊潤で、「魚は生臭いから嫌い」というひとでもおいしく食べられるはずだ。

「チームぶえん」の挑戦

この洋上活け締めカツオは初水揚げ翌日に行った試食会でも絶賛された。JF枕崎市はブランド化を決め、名前を一般公募した。応募総数三七〇点の中から「ぶえん鰹」と命名。「ぶえん」とは「無塩がなまった」地元の方言で、塩を使っていない新鮮な魚の意味だ。二〇〇五年六月、枕崎市恒例の「かつおまつり」で初売りされた。二日間で一五〇キロを売りさばくほど、大好評だったという。同年十一月には鹿児島県水産物品評会で農林水産大臣賞を受賞。翌二〇〇六年には農林水産祭で内閣総理大臣賞に輝いた。

JF内の有志で「チームぶえん」をつくり、市内だけではなく鹿児島県内のイベントなどにも参加し、試食PRを積極的に展開する。市内小学校の校外授業にも力を入

伝統ある豪快なカツオ一本釣り漁

右：モチモチした触感がたまらないぶえん鰹
左：ぱっくりと口を開けたB1カツオの水揚げ

れている。小学生をJFに招き、施設見学、自前のビデオでの学習とぶえん鰹の試食を行う。子供たちはみな、喜んでカツオを食べているという。また、JF主催の「枕崎ぶえん祭り」や、地元と協力して「ぶえん鰹スタンプラリー」、修学旅行の受け入れなども行っている。「まず、食べてもらうこと。それが魚食普及につながる」と森康作総務部次長は目を細める。チームぶえんはオリジナルキャラクター「ブエンマン」を生み出し、ブログ上でアニメ動画の公開も始めた。自主製作だけに元手はゼロ。三五〇年という歴史と、若い力が結集した賜物だ。

「ぶえん鰹」は、手間もコストもかかる。それでもカツオの高級ブランドとして世界に広めたい。だからJF枕崎市は、ぶえん鰹の価格を固定して買い上げ漁業者を支えている。白窪義広参事は「高くても、消費者の満足感があるから」と胸を張る。

カツオ一本釣りを守る

JF枕崎市の真の願いは「一本釣りカツオを広める」ことと「カツオ一本釣り漁業を守る」こと。ぶえん鰹だけではなく、生産の主流を占めているB1カツオの商品開発にも余念がない。同JFの直売所には、「ぶえん鰹（生食用）」「炭火焼鰹タタキ」「かつおの角煮」といった定番ものから「枕崎かつおユッケ」「腹身スティックバジル漬け」「枕崎かつお餃子」など、見慣れない製品が並ぶ。どれもJF枕崎の総合加工場で開発・商品化されたもので、本当においしいカツオを食べてきたひとたちにしか作れない、美味で優れた製品ばかりだ。売れ行きも上々。中でもハラミ系の製品は市内で爆発的に売れているという。工場長の俵積田剛氏は「ハラミだけ売れても困るんですよ、本体が売れないと」とうれしい悲鳴をあげる。

「ぶえん鰹ができたことによって、挑戦の気持ちが生まれた」と語るのは、営業一筋、特販課の揚野功課長。「商品開発していて楽しい。職員の好奇心が湧いてくる」のだと。

「一本釣りカツオの価値を分かってほしい。そして適正価格で買って食べてもらえたら」。白窪参事から本音がポロっと漏れた。

エッセイ

海へ、そして海に生きる人たちへ

For Sea and for Fisherman

さかなクン スペシャルインタビュー

■東京海洋大学客員准教授、農林水産省お魚大使　さかなクン

――さかなクンと魚の出会いを教えてください。

はい！　小さいときに福島県小名浜へ家族で旅行に出かけた時。魚屋さんの大きな水槽に握りこぶしほどの四角いお魚が泳いでいるのが見えました。「小さい鰭（ひれ）をパタパタさせて、目をくるくるさせて、なんてかわいいんだろう」と水槽を眺めていると、突然大きなお魚がドンと四角いお魚にぶつかっちゃいました。四角いお魚はヨロヨロとなりながらも頑張って泳いでいました。そして今度はタイくらいのお魚がドン。四角いお魚は、またヨロヨロ。これの繰り返し。実はこの四角いお魚がさかなクンの頭にのっている「ハコフグ」なんです。

その時、思いました。「この四角いお魚は可愛いだけじゃない。何度もぶつかって、よろけても一生懸命泳いでいる」。一途に頑張っている姿に感動しました。その感動

さかなクン

＜略歴＞

水産庁・水産政策審議会特別委員(元)
日本魚類学会会員
ＪＦ全漁連・魚食普及委員
よしもとおもしろ水族館研究員　ほか

お魚の豊富な知識と経験に裏付けされたお話しや、そのキャラクターが幼児からお茶の間まで大人気のさかなクン。子どもたちを中心に魚や海・自然への興味を引き出し、漁業や魚食と環境保全への理解が増すよう、さかなクンらしいカリキュラムを組み全国規模で講演を行っております。

さかなクン直筆の漁業応援イラスト。仲良く２匹ずつ前向きに描かれた東北のお魚たち

があって「ハコフグ」と常に一緒に、お魚の魅力を皆さまと共感させていただいています。

東日本大震災について

――三月十一日の東日本大震災の時、どこにいて、どのようなことを思いましたか。

はい。テレビの撮影で沖縄本島にいました。撮影の合間にスタッフの方から地震のことを聞き、東北のお世話になっている方々のお顔が次々と頭に浮かんできて、心配でたまらない気持でした。

急いで皆さまに連絡を取ろうと電話をしましたが、全く連絡がつかず何度も何度も連絡しました。そんな中、いつもお世話になっている岩手県久慈市にある「もぐらんぴあ」という水族館の宇部さんと連絡が取れ、「みんな無事ですよ」という一言、ものすっギョくホッとしました。でも、施設は海の目の前だったため、ほとんどが流されてしまったということでした。

――さかなクンと被災地との関わりはありますか？

毎年のように現地へお伺いして、漁船に乗せていただいたり、美味しいものをご馳走になったり、さまざまな漁業について学ばせていただいたりとお世話になっている方々がたくさんいらっしゃいます。

岩手県久慈市の水族館「もぐらんぴあ」では、さかなクンイベントを毎年夏に催していただいており、今年は七年目の開催予定でした。久慈の皆さまには家族のように接していただいて、とても楽しみにしていました。

――被災地へは行きましたか？

地震から約一カ月後に岩手県久慈市へ、

その数日後に、宮城県南三陸町を訪ねました。

岩手県では、幼稚園、保育園、小学校、中学校の六校を訪ねて、JFの方々と漁師さんにもお会いしてお話を伺いました。また、宮城県では、南三陸町の佐藤仁町長や町の総合体育館ベイサイドアリーナ、自然の家などに集まった皆さんにもお会いしてきました。

港などで壊れてしまった建物を見て、とても切なく悲しい気持ちになってしまいましたが、集まっていただいた小さい子、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、皆さんにとても喜んでいただいて温かい笑顔で迎えていただいたことに、逆に自分が元気をいただきました。

――被災地の復興に向け、どのようなことを期待しますか？　また、どのようなことをしたいと考えていますか？

「生きている」ということは何にも変えられない大事なこと。太陽の輝き、波の音、鳥のさえずり、心地よい風――。普段の何気ない一つ一つに目を向けて、みんなで共感できればお互いに頑張れます！

人は五感で表現することができます。小さい子は元気で、可愛い姿そのままで周りを温かい気持ちにさせてくれます。それぞれの年代・立場・職業の方々も一人ひとり素晴らしい役割を持っていると思います。

大きなことをやらないといけない――と考えずに、すぐ目の前の自分にできる範囲のことから取り組んでいけば、きっと大きな輪に広がっていきます。

さかなクンも魚の魅力と感動を絵やお話で表現して皆さまにお伝えすることが自分の役割だと思っています。これからも皆さんと感動・喜び・幸せを共感していきたいです。

日本の漁業について

――現在の日本漁業についてはどのように思いますか？

日本では約四〇〇〇種のお魚が知られています。実に多種多彩でギョざいますね！日本各地で漁師さんの船に乗せていただきます。そして、さまざまな漁業を見せていただきます。時にはひとつの網に七〇～八〇種類のお魚がかかる時もあります。ただ、仕分けしていくと規格外で値が付かないお魚や肥料になるお魚、そしてなんと廃棄物となってしまうお魚が実に多いことにショックで悲しくなります。輸入したお魚も美味しいですが、日本で取れた近海魚は種類が豊富でそれぞれ旬があり、新鮮でとっても美味しいですよね。日本のお魚をもっと大事にすれば日本の漁師さんもお魚たちも幸せだと思います。

サインで元気を！ さかなクン、被災地でサインをプレゼント

――どうしたら、日本漁業はよくなると思いますか？

漁師さんのお仕事は自然の中で何かが起きたら命に関わることもあり、常に危険と隣り合わせです。時には、海が荒れている中、沖までお仕事に出られる時も！　お魚も一生懸命生きて、漁師さんも一生懸命お仕事をされている。だから、美味しいお魚をいただけることに喜び、感謝する気持ちを持つことが大事だと思います。

海に囲まれた日本の種類豊富なお魚、地域のさまざまな食文化、多彩な四季があります。住んでいる土地のものや旬のものを大事に食べるように心がけますと、どんどん良くなると思います。

――さかなクンの夢を教えてください。

ＪＦグループの皆さまの「がんばれ漁業募金」にたくさんの方々と参加させていただきました。そして、大勢の方々にお優しいお言葉とともに募金していただきました。この活動は自分にとって貴重な経験となりました。これからも、お魚に触れる喜びや嬉しさ、漁師さんやお魚への感謝の気持ちを皆さんと共感できれば、すっギョく幸せです。そのためにも、お魚の魅力、素晴らしさを大好きな絵で表現し、機会をいただければ新聞やテレビ、ニュース、本などいろいろな場面でどんどん紹介させていただきたいです。

本日はありがとうギョざいました！

手作りのハコフグ募金箱を持参し「がんばれ漁業募金」に参加

第一回

さかなびと

海で生きる

市民とつながる若手定置網漁師

あやか水産代表・綾香良浩さん

フリーライター　眞鍋じゅんこ

長崎県の北西部に浮かぶ平戸島は、江戸時代に日本初の貿易港として、オランダ貿易の中心となった歴史深い土地だ。

平戸城址や異国情緒あふれるカトリック教会などを目当てに、観光客が多く訪れるが、島の西側に、もうひとつの人気スポットがある。観光定置網体験だ。

漁師として夢中なことは？「今は米を売ることです」

主催するのは、地元漁師のあやか水産。三年前に四代目を継いだ綾香良浩さん（三六歳）を訪ねた。

取材前に電話でお話を伺うと、良浩さんは漁業の他にも、長崎県県北地区漁業士会副会長、平戸市地域資源ブランド化推進委員、地元中学校の評議委員など、さまざまな活動をしているという。あまりにも範囲が広いので、質問を変えてみた。

「ではその中で、今一番入れ込んでいるのは何ですか？」

すると予想外の返事が返って来た。

「そうですね、米を売ることかな」

漁師が米を売る？　この謎の言葉を胸に、島に向かった。

観光定置網漁体験に忍ばせた後継者育成の願い

平戸到着の翌朝、白石漁港に向かった。観光定置網漁船に乗せてもらうためだ。

現在では各地で行われているが、一〇年前に良浩さんの父親綾香良一さん（六三歳）が始めた時には、草分け的存在だった。遊漁船仕様の船を新造し手続きも煩雑、実現には随分手間がかかったと、良一さんはいう。

その甲斐あってこの体験は人気を呼び、団体予約やリピーター客も多い。

午前六時、集合。地元の親子連れ団体客と一緒に、船に乗り込むことになった。

乗船に先立って、父親の良一さんが、挨拶と説明を行う。

「この漁業体験は、皆さんに漁業やこの海のことを知ってもらうために始めました。そしてもうひとつ」と、父は続ける。

「将来若い人が漁業をしたくなるきっか

あやか水産の定置網漁体験。参加費は朝食付一人 3000 円、前日までの予約で 1 人でも乗船可能。新たな船を仕立てないので、客がいなければ通常漁業を営めばよいのも利点だ

けづくりになればと願っております」

聞けば実際に二人の青年が、地元で漁師になったという。手間をかけて始めた事業は、単なる船遊びの提供ではなく、大いなる願いも込められていたのだ。

着慣れない救命胴衣を身につけて、緊張気味の乗客たちも、漁場に到着して乗組員に教えられた通りに網を引き上げると、声が上がり始めた。

「わあ、トビウオって胸びれがきれい！」

「イカが泳ぐ姿、初めて見た！」

網の中で跳ねる魚介をタモですくい、カゴに広げて仕分ける。あやか水産はこれを一度ではなく、大小四カ所の網を引く。結構長い体験なのだ。

二度目以降は、客たちも勝手がわかって仕分に専念する人、家族の写真撮影に夢中な人、熱心に魚をすくい続ける人と、それぞれの楽しみ方で時を過ごした。

帰港後は、岸辺の食堂で取れたて魚を炭焼きし、刺し身とみそ汁の朝食をいただく。自分たちが取って来たばかりの魚が、目の前で食べものに変わるように、大人も子どもも、喜びでいっぱい。何よりこの海の豊穣さにも、驚かされた。

ちなみにこの食堂は、母親の清子さんが経営している。土日の昼時には大賑わいの人気店で、料金は二一〇〇円。山盛りの取れたて魚介の刺し身付きで、ご飯やみそ汁はもとより、大皿に盛られた地元野菜や魚介をふんだんに使った料理を食べ放題という、太っ腹の店だ。清子さんと近所の主婦たちで調理するだけあって、その名も「母々の手（かかのて）」

市会議員に食堂経営 一家揃って元気がみなぎる

漁の後、調理場に入って魚をさばく父親の良一さんは、実はJF中野組合長であり平戸市会議員でもある。揃いも揃って大活躍の家族なのである。

父を評して良浩さんは、「おもしろい人ですよ。厳しいけど」といって笑った。

良浩さんは五人兄弟の長男としてこの地に生まれた。父によれば、「漁師にさせるために小さい時から洗脳していた」。

何より良浩さんの根底に育まれたのは、家族への思いやりだろう。長男として弟たちの面倒を見て守ることを叩き込まれたのである。これがいつしか、皆を見守る度量の大きさや強いリーダー性として開花する。良浩さん自身が何度か口にした言葉が、それを物語る。

「僕はね、いつも自分だけが幸せになってはいけない気がしているんです」

市民グループと交流し 町おこしを楽しむ

とはいえ、良浩さんも最初から跡取り模範生だったわけではない。むしろ「どうせ最後には継ぐのだから」と、学生時代までは漁業の手伝いも熱心ではなかった。

それどころか、「元気過ぎて、高校は二年遅れで卒業」と良浩さんは苦笑する。

そして一九歳にして元同級生と結婚、出産。親にとってはハラハラの半生だ。

ところが「結婚がかえってよかったんですね。家族ができたことで腹をくくれました」と本人の言う通り、親の「漁師になれ」という洗脳が、一気に開花する。

父親も六〇歳を機にあやか水産を息子に譲り、良浩さんは三三歳にして責任を一手に担うことになった。

「まじめに努力すれば飯は食べていける」という父の言葉を胸に、良浩さんは正月と盆以外、ほとんど無休だ。「従業員は休ませても、自分が休むわけにはいきません」とこの若社長はいう。そして「むしろ定置網漁で安定収入を得て、漁業以外にもいろいろなことができると考えれば、やり甲斐のある良い仕事です」

良浩さんによれば、「頭の中にいろんなおもしろいことが浮かぶんです」

それを整理して実現可能だと感じたら、即実行。二八歳でJF青年部の会長に就任し、JF青年部の婚活パーティをはじめ、冒頭に上げたさまざまな活動に繰り出すのだった。

「僕自身は、何もできませんが、周りの人が勘違いして期待してくれる。すると

あやか水産のある白石漁港。橋の対岸は生月島

僕は絶対それ以上の結果を出してやろうって、頑張ってしまうのです」。

その一端をご紹介します、と、良浩さんはこの夜、飲み会に誘ってくれた。

集まったのは、市や県の職員、商店主、飲食店、主婦などなど。地元のさまざまな業種の人々とつながりをもって平戸を盛り上げようと、市民グループ「わらくの会」を立ち上げたのだ。

右から綾香良浩さん、妻由紀さん、母清子さん、父良一さん、弟宏章さん。
左は「母々の手」の料理

たとえば春の潮干狩り大会。これまではJF青年部が主催していた。今年はわらくの会の仲間が協力して、お客を楽しませるステージ公演をするなど、地域ぐるみのイベントとして大いに盛り上げたのだ。その中心は、もちろん良浩さん。

「自分は何もできないんです。周りの人たちが、盛り上げてくれるだけで」としきりに謙遜するが、面々は楽しそう。

ある女性がいう。「私はスタッフ数十人分の弁当を任されたんですが、その要員や材料など心細い部分を、綾香さんは『どうですか?』と、そっと声をかけてくれました」と心配りを嬉しく思う。

綾香さんと一緒にいると、何だか面白いことができる。そして期待を裏切らない。そんな思いが皆を引き寄せるのだ。

「米販売に夢中」の謎の答えを精米所と棚田に見つけた

翌日、良浩さんは島の内陸部を車で案内してくれた。そこは見渡す限りの丘陵地に棚田が広がっていた。

「この島の漁師は、半農半漁が多いんです。うちの田んぼもこの辺です」と、良浩さん。

地元の精米所を営む永田昇治さんに会った。彼によれば、「この島では牛を飼い、堆肥でうまい米を作る農家がまだあります」

高齢化が進み後継者不足の農家を激励しながら、永田さんは良質な米の販売に精を出す。その姿に良浩さんが共鳴したのだ。

新潟のこしひかりにも負けない味と評価された平戸の有機栽培米の販路を広げられないか。良浩さんは、自分の取引先である寿司チェーン店などにこの平戸米を勧め、実現している。旨い魚に旨い米。平戸の良さを世間にじわじわと広めるのが、今の良浩さんの醍醐味なのだ。

「これも自分だけが良い思いをしてはいけない気がするからですよ」

幾度となく聞かれた良浩さんのこの言葉が、家族どころか平戸の未来を大きく育んでいることを実感した。

JF全国監査機構より

監事が注目すべき第一のポイントは組織のリスク

JF全国監査機構
監査委員長
近江正幸（おおみまさゆき）

前回、監事監査は「理事の職務の執行を監査する」ことを職務とし、JFの健全性維持のために欠くことのできない存在であることについて説明しました。では理事の職務とは何でしょうか。理事の業務範囲は膨大ですが、大まかには①会計業務と②会計業務以外の業務の二つに分類できます。

①の会計業務は組織の作成する財務諸表の作成業務で、その業務に対する監事の検証と評価は「会計監査」と呼ばれます。②は会計業務以外の業務であり、その業務に対する監事の検証・評価は「業務監査」と呼ばれます。JFおよびJF漁連の監事の皆さまは会計監査も業務監査も担当しなければなりません。

JFの監事の皆さまは、浜で長年にわたり漁業に従事し、周囲から信頼され総会で推挙され、監事として就任された方が多いと思われます。昨日まで浜で魚を取っていた漁業者が、突然「あなたは今日から組合の監事だ」と言われた場合、自分が何をすれば職務を果たすことができるか当惑するのは当然です。

しかし心配する必要はありません。たとえ経験や専門的な知識のない漁業者の方でも、監事として一番大事な仕事を成し遂げることは可能です。

個人的見解ですが、監事にとって最も大切な仕事は、自分の組織の健全性にとって脅威となる重要で危険な事象（リスク）をいち早く発見・認識し、それを組織の経営者に具申し、対応を取らせることです。そして、もし経営者が監事の指摘に誠実に対応しないようならば、組合員総会において、その旨を報告し、組織としてどうすべきかを提議し、組合員に考えてもらうことです。JFと付き合いの長い漁業者であれば、組合の存続に影響をもたらすような重大な脅威（リスク）に対する感性、すなわち「危ない」との勘が働くことが期待できます。経営者や職員は、組織の存続と繁栄のため、職務にまい進せざるを得ません。時には、その熱心さが組織を違法行為や危険な投機的活動に走らせたりします。周りが見えない状態も危惧されます。彼らとは一歩離れた立場から、常に注意深く経営者および組織の経営活動を検証していれば、危ない状況に待ったをかけ、組織の危機を回避することができます。最初から全てを完璧に調査し、理事の職務の適法性や妥当性を評価することなどできません。ポイントは現時点の自分の力で、監事として組織のために何ができるかを考えることです。

リスク感性を働かせることは新米の監事でも可能であり、しかもこれは監事としての生命線です。水戸黄門ではありませんが、監事は組織のご意見番です。

共済コーナー

JF共済 「すーぱーまいぷらん」、「すーぱーまいぷらんぷらす」新登場
――2011年7月1日よりJF共済・チョコー（普通厚生共済）改正

ＪＦ共済の生命共済・チョコー（普通厚生共済）の特別共済のうち、満期型の「マイプラン（特別養老共済）」と終身型の「マイプランプラス（特別終身共済）」が2011年7月1日より改正され、愛称も「すーぱーまいぷらん」、「すーぱーまいぷらんぷらす」と一新されました。

従来の「マイプラン」および「マイプランプラス」は健康に不安のある方でも加入できることが大きな特長でしたが、高齢化が進む中で健康に不安を持つ方々の割合が多くなっている背景から、今回の改正では共済掛金の変更を行わずに、治療中の病気や過去に治療していた病気への保障を充実させるとともに、加入できる対象者を大幅に拡大し、しかも簡単な手続きで加入できるよう制度を改めました。

新しくなった「すーぱーまいぷらん」および「すーぱーまいぷらんぷらす」の主な特長は次のとおりです。

1．**簡単な告知でご加入できます**…40歳から75歳までの方で、通院中や病歴があるなど健康に不安がある方も健康状態等の4つの質問に該当しなければ加入できます。

2．**病気での入院、手術をご加入後すぐに保障します**…これまでは加入から2年間の病気入院・手術を保障できませんでしたが、加入からすぐ保障できるようになりました（ただし、加入後1年以内の病気入院・手術保障は50%、医療共済〈疾病入院条件付支払特約〉付加の場合）。

3．**共済期間中の万一の保障額がてい増していきます**…加入から経過年数に応じて死亡共済金が加入額と同額まで段階的に増えていきます。

「すーぱーまいぷらん」、「すーぱーまいぷらんぷらす」についてのお問い合わせは、組合またはＪＦ共水連までお気軽にどうぞ。

すーぱー まいぷらん 特別養老共済

すーぱー まいぷらん ぷらす 特別終身共済

ぎょさい 「ぎょさい」と「積立ぷらす」の普遍的加入に全力
――平成23年度「ぎょさい」の事業方針

漁済連は、6月24日の通常総会で平成23年度事業方針を決定しました。その骨子は次のとおりです。

東日本大震災は多くの尊い人命を奪い、太平洋沿岸部の漁村とあらゆる水産関連施設に甚大な被害を与えた。また、震災を起因とする福島第一原子力発電所の事故は、漁獲物の販売や魚価形成等に大きな影響を与えている。震災による漁業被害は過去に例を見ない規模であり、著しい損害を受けた岩手県・宮城県を中心に多額の共済金支払いが見込まれているが、漁業の一日も早い復興の一助となるよう、共済金の早期支払い実現に全力を挙げることとする。

漁業共済事業は、さまざまな災害から漁業経営を守るものとして、大きな被害が発生する度にその果たすべき役割について注目を集めてきたが、残念ながら今回の被災者の中にも多数の未加入者がいたことは、漁業共済団体として真摯（しんし）に受け止めなければならない。

このような状況のもと、本年度から実施される「資源管理・漁業所得補償対策」の大きな柱である「漁業収入安定対策事業」は、「ぎょさい」と「積立ぷらす」の内容を大幅に拡充・強化するものであり、漁業共済団体がその一翼を担うこととなった。

「ぎょさい」と「積立ぷらす」が漁業経営対策の根幹として明確に位置付けられた今、漁業共済団体は、新たな全国運動「ぎょさいでぷらす！安心経営」を軸に、「ぎょさい」と「積立ぷらす」を全国の隅々まで浸透・定着させなければならない。この震災による未曾有（みぞう）の苦難を乗り越えるため、全国の水産関係者が一体となり英知を結集しなくてはならないが、漁業共済団体としては「ぎょさい」と「積立ぷらす」の普遍的加入を早期に実現することが、それに応える責務である。

今年度も共済事故の多発が予想されるが、常に漁業者の目線に立ち、迅速な共済金の支払いに努めるとともに、制度改善についても具体的な検討を進めて行くこととする。

JF 掲示板

テントを増養殖施設に

■JF大槌町（岩手県）

東日本大震災で、岩手県下のワカメ種苗供給産地であるJF大槌町とJF三陸やまだも甚大な被害を受けた。日本一の生産量を誇る岩手県のワカメ――収穫目前だったワカメはロープごとすべて流失した。

壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町。津波で町ごと流された後、火災が発生し、いたるところに焼け跡が残る。JF大槌町の事務所は浸水し、現在は同JFのふ化場に仮設事務所を置いている。例年だったら、この時期にワカメの採苗を行うはずだ。「今採苗し、秋に沖出しできれば、来春には漁業者の収入となる」。JF職員は一日も早く採苗したいと考え、テントを思いついた。さっそくJF岩手漁連経由でJF全漁連へ連絡が入った。

JF全漁連担当者は、一昨年東京で開催した全国豊かな海づくり大会の運営を担当したNHKアートに相談した。同社の担当者（冨田まおみ氏）はテントの手配を快諾した。第一七回大会（一九九七年開催）でも運営に携わっていたNHKアート。この大会は奇しくも岩手県大槌町で開催されていた。

NHKアートはテント一〇セットを調達。六月三日（金）、JF大槌町（仮設事務所）に直接納品し、テントの設営講習を行った。JF大槌町の倉澤重司組合長は、海づくり大会がとりもつ縁にとても喜び「大切に使わせていただく。力及ばないかもしれないが、一生懸命やりたい」と語った。同日は、倉澤組合長のほか、JF大槌町の職員が多く集まった。久しぶりの作業に、職員の顔にも笑顔が戻っていた。

大震災による被害状況

■ＪＦ全漁連経営統括部

本会は、今般の大震災を受け、まずは、本会および子会社の職員・従業員等の安否を最優先事項として確認作業を進めてきた。五月末時点では、本会職員全員の無事を確認できたが、残念ながら子会社であるぜんぎょれん食品㈱は従業員一人の死亡が確認され、依然として一人が行方不明となっている。

施設等の被害状況については、本所・東北事業所では特に大きな被害はなかったが、三陸地区にある油槽所は、甚大な被害を受け、その結果、石巻油槽所は操業停止となり、気仙沼油槽所は廃止となった。

ただし、気仙沼地区における燃油供給体制を維持すべく、六月一日付けで気仙沼駐在を設置している。

なお、既に、休止中である大船渡油槽所を含めた三油槽所以外は、通常操業を行っている。

また、ぜんぎょれん食品㈱は、建物や設備の一部が被災し、三工場のうち気仙沼工場および石巻加工センターの二工場が四月末をもって閉鎖を余儀なくされたが、塩釜工場は復旧し操業を行っている。

なお、本会としては、今後も継続的に安否確認および被害状況把握などの情報収集を行っていくとともに、会員および取引先の皆さま方にご迷惑がかからぬよう対応を進めていくこととする。

ギョレンオイル大漁シリーズが発売四〇周年

■ＪＦ全漁連購買事業部

ギョレンオイル大漁シリーズは、一九七一年に発売され、今年で発売四〇周年を迎えます。日頃のご愛顧に深くお礼申し上げます。

「ギョレンオイル大漁」は、発売から四〇年間、ＪＦグループの独自ブランドとして高品質、安定供給をモットーに、漁業者の方々が安心してご利用できるよう皆様と共に歩んで参りました。

発売当初より製造元の一社である極東オイル㈱様からご協力を頂き品質向上を図るとともに、ＪＦ全漁連油質研究所を開設し漁業者の方々へのサポート体制を整えました。

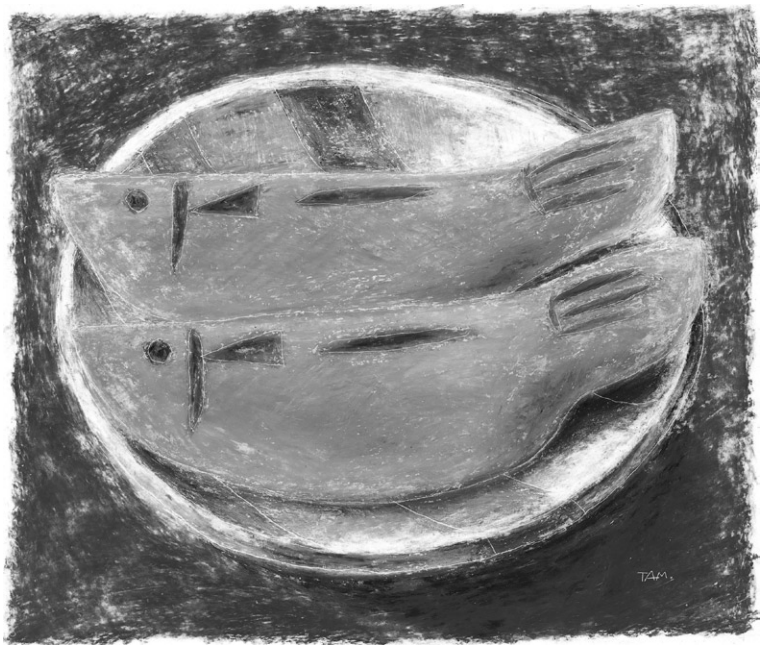
現在では、潤滑油だけでなく燃料油の試験分析機関として今日に至っており、今後もさらなる品質の向上に取り組んで参ります。（極東オイル㈱様には、東日本大震災発生後、物流が混乱する中でも供給面でご協力を頂いたほか、会社・社員の方々から義援金、激励を頂きました。改めて厚くお礼申し上げます）

なお、大震災において、ＪＦ全漁連気仙沼・石巻両油槽所が津波により流出してしまいましたが、新たなサポート体制を整備した上でＪＦグループへの供給を継続して参ります。

漁業者の皆様と共に歩んで四〇年、引き続き「ギョレンオイル大漁」をよろしくお願い致します。

表紙のことば

村上　保



六月に入ると、全国各地の川で鮎解禁が始まる。ＴＶのニュースなどでも流され、いよいよ夏到来を実感する。それに先立って和菓子屋さんなどでは「鮎焼き」が売られはじめ、こちらも夏の風物詩だ。

「鮎焼き」は最初、円形の薄いカステラ生地に求肥やアンを乗せて二つ折りにしただけのものだったらしい。それが何時の頃からか、目やひれの形の焼印を押して今の形になったという。何だか日本独特の文化である折り紙に似ている気がする。日本人の優れた感性が生んだ傑作の一つだろう。

若鮎は西瓜や胡瓜の匂いがするところから「香魚」とも呼ばれている。おもしろいのは、水がきれいな場所の鮎ほど西瓜の匂いが強く、水質が落ちるにつれて胡瓜の匂いに近くなるそうである。また、鮎は友釣りが有名だが、石に着いた藻などを主食とする鮎が、それを守るために縄張りを作る。いうまでもなくその習性を利用した釣りだ。天然の鮎はひれやえらの黄色味が特色だが、養殖ものはそれがあまり目立たないという。縄張りを持たない養殖環境の違いからきていると考えられているそうだ。自然と生物の共存について考えさせられる例えの一つだろう。

漁協くみあい 2011 夏号 NO.140

特集 2012国際協同組合年（IYC）に向けて

3 IYCとは？
ＪＦ全漁連信用・組織指導部

6 協同組合憲章の制定に向けて
富沢賢治〈聖学院大学大学院教授〉

7 世界の協同組合論
田中文章〈農林中央金庫広報部副部長〉

10 地域社会の支持、共感・共鳴を広げる協同組合運動へ
松岡公明〈㈳JC総研常務理事〉

12 今こそ協同の精神で頑張ろう
——JF 重茂 復興への道
大浦佳代〈農山漁村ジャーナリスト〉

表2 巻頭グラビア わすれない——希望・東日本大震災——

14 アンバサダー赤尾信敏の地球鳥瞰 第32回
中国の経済発展——その驚異と課題（その二）
赤尾信敏〈元タイ王国駐在大使〉

16 漁カフェ ほっと一息
JF 重茂 伊藤隆一組合長ミニインタビュー

17 おさかなレシピ●旨！ 海農どんぶり
おさかな豆知識●鹿児島県阿久根の三角ミナ

18 JF最前線
カツオ一本釣り漁業を守る！〈JF 枕崎市〉
編集部

22 エッセイ 海へ、そして海に生きる人たちへ
さかなクン スペシャルインタビュー
さかなクン〈東京海洋大学客員准教授、農林水産省お魚大使〉

26 さかなびと 海で生きる
市民とつながる若手定置網漁師
眞鍋じゅんこ〈フリーライター〉

30 JF全国監査機構より
監事が注目すべき第一のポイントは組織のリスク
近江正幸〈ＪＦ全国監査機構・監査委員長〉

31 共済コーナー
「すーぱーまいぷらん」、「すーぱーまいぷらんぷらす」新登場 **JF 共水連**
「ぎょさい」と「積立ぷらす」の普遍的加入に全力 **漁済連**

32 JF掲示板

34 表紙のことば 村上 保〈彫刻家・イラストレーター〉

35 編集後記

編 集 後 記

今号冒頭の「わすれない」はサブタイトルに「希望」の二文字を使わせていただきました。震災の傷はあまりにも深く、癒えるには相当の時間が必要だと思います。しかし、復興に向けた動きはあちらこちらに見え始め、そこには震災を乗り越えようと逞しく働く人々がいます。

そんな浜の仲間の姿を今後も引き続きお伝えしなければと考えるとともに、皆さんがこれからも漁業を続けることができますよう、今まさに国を挙げての支援が必要であると痛感させられました。また、自分たちにできることは何か、を改めて考えるきっかけにもなりました。

「漁協（くみあい）」は当140号より、装いを新たにスタートすることとなりました。今後とも皆様からのご意見をお待ちしております。どうぞよろしくお願い致します。

（こ）

季刊誌 漁協（くみあい）

年間予約購読 3,500円（計4冊 税・送料込み 日本国内のみ）
1冊だけの場合 900円（税・送料込み 日本国内のみ）

●購読のお申し込み
JF全漁連 総合管理部 広報担当
季刊誌購読係
〒101−8503
東京都千代田区内神田1−1−12コープビル7F
TEL03−3294−9629
FAX03−3294−9664
E-mail：z-kouhou@zengyoren.jf-net.ne.jp
URL：http://www.zengyoren.or.jp
★年間購読をおすすめします。

●振込先 農林中央金庫本店 普通 3950（全国漁業協同組合連合会）

☆本誌購読のお申し込み、宛先などの変更
☆本誌記事に関するお問い合わせ、ご意見・ご要望は、いずれも上記までお寄せ下さい。